



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

第 12 回連続講座

『いのち』を考える

～悲しむ人にやさしく寄り添う～

開催のお知らせ

JR 西日本あんしん社会財団では、平成 24 年度より、死や悲嘆・グリーフケアをはじめ、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、共に考える連続講座を開催しています。

平成 28 年度は年 3 回（春、秋、冬）開催を予定していますが、このたび、秋季の第 12 回連続講座『いのち』を考える～悲しむ人にやさしく寄り添う～を以下のとおり開催することとなりましたのでお知らせいたします。

1. 日 時 平成 28 年 10 月 11 日から平成 28 年 11 月 15 日までの毎週火曜日 18:30～20:00（計 6 回）
2. 会 場 毎日新聞オーバルホール（毎日新聞ビル地下 1 階）
3. 講 師（敬称略）

① 10/11	柏木 哲夫	淀川キリスト教病院理事長
② 10/18	高木 慶子	上智大学グリーフケア研究所特任所長
③ 10/25	小林 玖仁男	国登録有形文化財「二木屋」主人
④ 11/1	森 清 範	清水寺貫主
⑤ 11/8	沼 口 諭	医療法人徳養会 沼口医院 理事長（真宗大谷派僧侶）
⑥ 11/15	清 水 俊彦	東京女子医科大学脳神経外科客員教授

4. 主催等

主催：公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
協力：西日本旅客鉄道株式会社

5. 定 員

480 名（参加無料）

6. 応募方法

- ・ホームページ（<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>）からご応募ください。
 - ・6 週連続で出席いただける方を対象とします。
 - ・応募締切：平成 28 年 9 月 12 日（月）
 - ・応募多数の場合は抽選の上、結果をメールでお知らせします。
 - ・受講には受講証が必要です。（9 月 26 日頃発送予定）
 - ・ご応募でいただいた個人情報、当講座の運営及び当財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。
- ※上記による応募ができない場合は、ハガキに「連続講座受講希望」と明記の上、氏名（要フリガナ）、郵便番号、住所、電話番号を記載し、下記の宛先へお送りください。結果は受講証の発送をもって代えさせていただきます。（ハガキ 1 枚につき 1 名様のお申込みとさせていただきます。）

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4 番 24 号

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団

7. その他

- ・都合により急遽講演内容等を変更する場合があります。
- ・当日の取材はお断りさせていただきます。
- ・講座の内容は、ホームページ（<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>）でもご覧いただけます。

第12回連続講座『いのち』を考える ～悲しむ人にやさしく寄り添う～ 講師プロフィール（敬称略）

日程	講師	プロフィール
10/11 (火)	柏木 哲夫 (かしわぎ てつお) 淀川キリスト教病院理事長 【演題】 悲しみを支え、悲しみに寄りそう	大阪大学医学部卒業。ワシントン大学留学。淀川キリスト教病院で日本最初のホスピスプログラムをスタート。平成5年大阪大学人間学部教授。平成16年定年退官、金城学院大学元学長・学院長。平成25年より淀川キリスト教病院理事長。平成27年金城学院学院長を退任。日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長、JR西日本あんしん社会財団理事。著書に『使命を生きたということー真のホスピス緩和とケアとがん哲学者外来からのメッセージ』（青海社）など多数。
10/18 (火)	高木 慶子 (たかき よしこ) 上智大学グリーンケア研究所特任所長 【演題】 愛と悲嘆	聖心女子大学文学部心理学科卒業。上智大学神学部修士課程修了。博士(宗教文化)。「生と死を考える会全国協議会」会長、「兵庫・生と死を考える会」会長。援助修道会会員。二十数年来、終末期にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々のグリーンケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。幅広い分野で全国的にテレビや講演会等で活躍中。著書に『悲しんでいいー大災害とグリーンケア』（NHK出版）、『それでも人は生かされている』（PHP研究所）、『死と向き合う瞬間ーターミナル・ケアの現場から』（学習研究社）、『大切な人を亡くすということ』（PHP研究所）など。
10/25 (火)	小林 玖仁男 (こばやし くにお) 国登録有形文化財「二木屋」主人 【演題】 あの世に逝く力 ～悔いなく自分の人生を完結させるために～	昭和29年埼玉県川口市生まれ。武蔵大学卒。平成10年祖父の家で「二木屋」を始める。平成14年に建物が国の登録有形文化財に登録される。五節句をはじめ季節ごとの室礼が見事。特に、春の雛人形コレクション一般公開や、秋の薪能は有名。著書に『日本の室礼』（求龍堂）、『歳時で楽しむお料理12ヶ月』（扶桑社）、『運のつぼ77』（ワニブックス+新書）など多数。難病にかかり余命宣告を受けた思いをまとめた『あの世に逝く力』（幻冬舎）は、アマゾン売れ筋ランキング「死生観」の部で1位となる。
11/1 (火)	森 清範 (もり せいはん) 清水寺貫主 【演題】 いのちは仏なり	昭和15年京都市東山区清水生まれ。昭和30年清水寺貫主であった大西良慶和上のもと得度、入寺。昭和38年花園大学卒業、真福寺住職。昭和63年清水寺貫主、北法相宗管長就任。平成24年宝性院住職。その他、全国清水寺ネットワーク会議代表、洛陽三十三所観音霊場会会長、文人連盟会長など。著書に『心を活かす』（講談社）、『見える命 見えないいのち』（日本ビジネスプラン）など多数。
11/8 (火)	沼口 諭 (ぬまぐち さとし) 医療法人徳養会 沼口医院 理事長 (真宗大谷派僧侶) 【演題】 医療がささえる命、宗教が向き合ういのち ～在宅医療チームに臨床宗教師を迎えて～	昭和63年岐阜大学医学部医学科卒業後、岐阜大学医学部第一内科入局。平成元年、国立療養所岐阜病院内科勤務、岐阜大学医学部附属病院医員。平成2年沼口医院常勤。平成6年、岐阜大学大学院医学研究科博士課程修了、医学博士、沼口医院院長。医師会活動として、大垣市医師会副会長。診療・研究領域は、消化器（消化管運動、ヘリコバクター・ピロリ感染）、医療におけるICT、地域包括ケア、在宅医療、認知症における連携、緩和ケア、医療と宗教（ビハーラ、臨床宗教師）。宗教活動として、宗教法人真福山徳養寺責任役員、日本臨床宗教師会役員、中部臨床宗教師会顧問、ビハーラ大垣副代表。
11/15 (火)	清水 俊彦 (しみず としひこ) 東京女子医科大学脳神経外科客員教授 【演題】 悲嘆と頭痛	昭和61年日本医科大学医学進学課程卒業後、東京女子医科大学脳神経外科学教室入局。平成4年東京女子医科大学大学院卒業。甲号、医学博士号取得。平成6年日本脳神経外科学会認定医。平成7年米国 National Headache Foundation 認定医。その他、日本頭痛学会幹事や監事等を歴任し、現在は日本頭痛学会代議員、日本頭痛学会認定指導医、全国慢性頭痛友の会（現在休会中）顧問も務めた。平成23年、東京女子医科大学脳神経外科頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授も兼任。